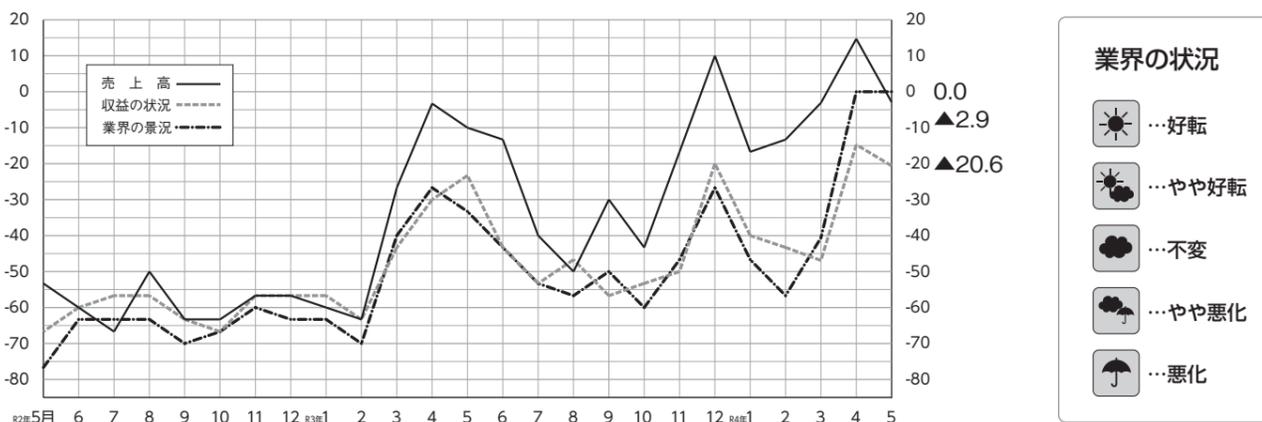




DI(景気動向指数)

情報連絡員報告



	旅館・ホテル	宿泊人数はGW以降増加。インターハイ、よさこい祭り実施も見込まれるため、好転基調が続く。宴会部門は戻らず、コロナ禍の影響を受けたまま会食を省いた会議のみの実施が散見される。
--	---------------	--

	食料品製造業(団地)	5月度は、観光客の動きがみられ、物販は昨年比に比べ好調であった。飲食関係の動きも活発に見受けられた。経営的には値上げも少しずつ進んでいる様相。収益面では諸物価(仕入れ、経費)上昇の悪材料が多すぎて見通し先行不安がある。新型コロナウイルスの影響に関しては、まだ本来の回復にはない商況。コロナ感染者の減少が進み、経済活動を見極める必要がある。
	酒類製造業	徐々に市場の動きに活発化が感じられる。5月GWは県内外共にやや復調の兆し。新型コロナウイルスの影響で今後は飲酒の習慣性に変化が予想される。
	帆布製品製造業	コロナ禍ではあるが、各種イベント開催がされるようになり、イベント関連主力の事業所も活気が戻りつつある。6月出荷分より、店舗用装飾テント材料代値上げ(15~20%)が決定。イベント関連事業も少しずつ回復基調になりつつあるが、まだまだ、厳しい状況。
	生コンクリート製造業	セメントをはじめとする原材料費のアップ、燃料のアップによる輸送コストアップが経営を圧迫している。価格転嫁について購入者と協議中。
	青果卸売業	売上高はほぼ前年と同じ。業務も前年と同じくらいに回復してきたが、まだ予断は許されない模様である。
	生鮮魚介卸売業	マグロ、カツオ、小物等順調に入荷。前年度と比べても売上高は上向きの傾向にある。新型コロナウイルスに関しては感染者数も減少傾向にあり、活気が戻りつつある。
	商店街(高知市)	中央公園地下駐車場 売上前年比121.0%、利用台数前年比118.3%。中央公園でのイベント開催が多くなり、若者を中心に人も戻りつつある。恒例の土曜夜市も7月の毎週土曜日に開催する予定。
	商店街(四万十市)	GWは連日県外客でにぎわった。飲食店はもちろん、久しぶりにレンタル自転車で行き交う観光客も増えた。今年も「藤祭り」は中止したので、お土産等を求める人々はサン・リバーに集中したようだ。6月から市内のホテルに泊まるともらえるクーポン券が出る。前は好評だったので、また商店街で活用してもらい、いい流れにつなげたい。
飲食店	先月と同じく、前年度比110~120%を売り上げやや回復基調だが例年(コロナ禍以前)との比較は8割程度、光熱費や仕入れ価格の高騰はさらに拡大、収益を圧迫し依然厳しい状況。新型コロナウイルスの影響で集客減、売り上げの低下がみられ、今後は、業界の規模が縮小すると思われる。	
普通洗濯業	ホームクリーニングは需要が回復しつつあるが、コロナ前ほどではない。燃料・原材料の高騰を受けて価格値上げが一段と浸透している。ホテルリネンも回復しているが、宴会需要は少ない。病院リネンは順調。新型コロナウイルスの影響でリモートワークの定着によるワイシャツなどの減少。今後もリモートワークは定着してきており、ワイシャツなどの需要回復は見込めない。	

	木製品素材生産業	ヒノキ価格の高騰で搬出量が増加して少しダブっており価格も減少。杉はしばらく高値が続くと思われる。6月に入り虫が入りだしてきているが、価格には影響なさそうである。新型コロナウイルスの影響も落ち着いてきており、木材価格には影響が少なくなってきた。
	一般製材業	輸入材、国産材ともに高値圏で推移している。
	機械すき紙製造業	パルプ、エネルギー、副資材類、運賃、薬品、等々の大幅値上げに伴い、取引先に価格転嫁を要請しているが、難航。現状では、出荷すればするほど赤字となる為、家庭紙メーカーは厳しい状況が続いている。

業界の状況

- ...好転
- ...やや好転
- ...不変
- ...やや悪化
- ...悪化

	手すき和紙製造業	新型コロナウイルス感染症の規制が緩和されてきており、少しずつ人の流れが増えてきているように感じるが、円安等による原材料の高騰がまだまだ続いており、動きも鈍く今後、収益にも影響が予想される。(人の流れは少しずつ戻ってきているが、動きは鈍く、不安材料ばかり。終息の見込みが未定なので、コロナウイルスと今後どのように付き合うのか?)
	金属製品製造業(団地)	コロナ禍や原油高等の影響により、資材の高騰や納期の遅れなどが続いている。団地内の業況は業種等によるバラツキがあるものの、概ね横ばいで推移している。新型コロナウイルスの影響で、外注先のクラスター感染で生産低下が生じた。また、部品や製品の納期の遅れと価格上昇。今後は部材関連の納期の長期化と値上げへの影響が予想される。
	船舶製造・修理業	生産状況は引き続き高水準で推移している。新型コロナウイルスの影響は少ない。
	装飾品・同関連品製造業	5月の取引額は前年同月比180%となった。しかし、令和元年同月と比べると71%であり、コロナ禍前の水準までは戻っていない。新型コロナウイルスの影響に関しては、消費者の購買力が依然低調。
	各種商品卸売業(団地)	1.規制なしのGWによる観光、外食の売上増はあったが、大きく好転した状況ではない。また、全体的なコスト増もあり、厳しい状況は続いている。2.仕入れ価格が上がってきている。6月7月と値上げのメーカーが増えている。
	各種商品小売業(土佐市)	予想通り、GWのひとの動きによってコロナ感染者の数も増えて、土佐市でも小中学校や保育園等で感染者が確認されたり、職種に関係なく人が外に出なくなり、厳しい月となった。
	旅行業	組合クーポン売上前年同月対比約6倍、全旅クーポンを合算した前年同月対比14倍。売上が倍増しているが、先行きは不透明であることに変わりはない。
	情報サービス業	先月からの変化は特に感じられない。補助金関係については引き続き問合せもあり、間接的にコロナの影響があると思われる。新型コロナウイルスの影響では、IT導入補助金も始まっており、問合せは増加傾向にある。今後もIT導入補助金活用もあり、パッケージ導入、サービス活用がさらに進展するのではないかとと思われる。
	一般土木建築工事業	セメント、骨材等原材料及び燃料・輸送費等引上げにより、生コン価格も引き上げやむを得ず、連合会主導で実施。県下一円で、生コン価格の引き上げを4月より本格化。当組合は、今回の動きについて、4月に建設物価調査会、5月に経済調査会からも、ヒアリングを受け、設計単価引き上げのための調査に協力していくもの。早ければ、物調は7月より積算価格引き上げとなるかも状況。共販での取扱量は、前年同期比で、▲4737.6㎡(86.7%)と減少。新型コロナウイルスの影響は感染者数の増加による工事への影響があり、今後も感染者数の増加によって、WITHコロナは仕方なく、人手不足が一層深刻化すると思われる。

	建具製造業	最近組合員の職人さんが高齢のためやめていく人が多い。若い職人さんはこの業界に入る人がほとんどいない。この先大丈夫が心配になってくる。新型コロナウイルスの影響によって他人に家に来られるのは嫌なので、リフォーム等の仕事も少ない。コロナがなくならない限りこの状況が続くのではないかと。
	印刷業	昨対は同等。回復傾向も弱みになりつつある。県外需要は業種によるがイベント関係が好調なのは明るい材料。しかし原材料の高騰もあり、状況は芳しくなく価格転嫁の進展次第では非常に厳しい展開も予想される。
	コンクリート製品	出荷数量は前年同月より減少。令和元年5月分の出荷から西日本豪雨による災害復旧工事の発注により増加が続いていた。令和2年7月分以降は、増減を繰り返して、令和4年5月分は前年同月より大幅に減少した。
	刃物・金物類製造業	4月からの価格改定があり、受注が停滞していたが、若干持ち直しの傾向となっている。まだ休暇下での受注残があるため、売上額はあまり変わっていない。新型コロナウイルスの状況により小売販売は低調。
	電気機械器具小売業	5月は、全商品平均で前年比96.3%。テレビ前年比88%、エアコン前年比96%、クリーナー前年比100%。火災報知器がよく売れている。前年比145%。
	中古自動車小売業	展示車両不足の因果関係は不明だが、来店客数が著しく減少している。展示車両不足は慢性的な相場高騰が一因であるが、問合せ件数も減少しているため、今後の消費者動向に注視しなければならない。業界全体のタマ不足による悪循環に陥っている。
	ガソリンスタンド	政府による燃料油価格激変緩和と事業発動も何度となく上限に達し、ガソリンスタンドにとっては仕切り価格も乱高下が激しく対応に困惑している。また、9月末でもこの補助が終わればどうなるのか、一挙に35円ほどの値上があるのか不安である。オミクロンの感染は少し安定しているため経済の活性につながることを期待したい。(感染前ほどには回復していないが、全国的に新型コロナウイルスへの感染が落ち着きを見せており、これから経済が元に戻ることを期待したい。)
	商店街(安芸市)	5月4日(水)のゴールデンウィークに「キッチンカー&ミニマルシェ」のイベントを開催。商店街や地元の方たちの出店のほか、安芸桜ヶ丘高校が「土佐ジローのラーメン」を販売。コロナ禍で高校生の販売活動ができていなかったのが、保護者や地元の方々から喜びの声があがっていた。また、商店街での久しぶりのイベント開催で、たくさんの方にご来場いただき大いに賑わいました。6月26日(日)には、農林商福と連携し「軽トラマルシェ」を開催予定。新型コロナウイルスの影響については、感染者数の増減によって、人の流れに変動がある。感染者数が多い地域と違って、地元で感染者が一人でも出ると警戒する人が多い。
	電気工事業	組合員の施工する電力引込線工事は、前年同月比81.6%となった。高知中央地区が大幅に減少(約62%減)したことが影響している。
	一般貨物自動車運送業	5月に入り荷動きは更に鈍ってきた。燃料価格は政府補助金により若干の値下げとなったがまだ高値で推移しており、売上低下もあり経営を圧迫している。新型コロナウイルスの影響で荷動きが悪く売り上げが伸びない。今後、荷動きが戻らなければ収益が落ち、経営を圧迫すると思われる。

	一般乗用旅客自動車運送業	実働1日1車当たりの前年同月比営業収入:111.6%、輸送回数:108.1%、実働率は52.3%。運転者の高齢化と減少、需要の減少、燃料費の高騰等により業界は大変である。
--	---------------------	---